

〔豐鑑三〕内野行幸

五日目十八日○天正十年四月還幸なり、○中略禁中へ入らせたまひて、いやましの御ことぶきなめならざる御氣色なり、晴の御膳の儀式あり、それより殿下○豐臣秀吉も還御有て、踏舞に堪給はず、誠に天長く地久しく、御代たもち給ふべき福ひなりと、皆人仰たてまつるもこととはり也、

〔江家次第一月〕供御藥

陪膳女房調<sub>大盛</sub>碗飯居臺盤<sub>二十坏</sub>、飯<sub>二十坏</sub>、給諸司女官并六衛府大破子<sub>三十荷</sub>、小折櫃<sub>交菓子三十合</sub>、

此外稱<sub>五</sub>腋御膳、自御厨子所供御齒固具、又供御藥酒等、以高坏六本獻之、

〔朝野群載五儀〕藏人左少辨藤原朝臣伊房仰云、從今月廿五日被<sub>六</sub>行御八講、脇御膳宜仰内藏寮令勤仕者、

治暦元年九月一日

出納右京少屬佐伯政輔

件脇御膳料、出納書分宣旨、令催之諸司也、内膳司椿餅、唐菓子、造酒司酒一斗、酢三升、大炊寮行事所道工等料、造物熟食、朱砂燒、橋二所塗料、朱砂二百兩也、其書樣見上、

〔厨事類記〕腋御膳御臺六本

第一御臺 御飯 御箸 同臺 第二 魚味四坏紙立盛 第三 魚味四坏同 第四

魚味八坏同 第五 御汁物 追物八坏紙立 第六 菓子八坏 此内三種菓子小預備進之

已上盛土器

〔三節會次第〕元日節會次第略 ○中

次内膳供御膳自南階供之、餛飩、素餅、餠、餠、心 供間群臣諸仗共立、供了各居問陪膳采 遅々時内膳別當下殿催之、別當不候者、内辨仰參議催之、次供殘御膳自東階供之、群臣不 遅々略 ○中

白馬節會次第略 ○中

殘御膳